東京ジャーミイ金曜日のホタバ

動物への慈悲

2011 年 7 月 15 日

親愛なるムスリムの皆様。アッラーは、地上の多くの恵みと同様に、動物たちをも人間への奉仕のために下さりました。ただ、どのような形であれ、動物を苦しめることは禁じられています。動物への慈悲についての預言者ムハンマドの多くのハディースが伝承されています。これらの中のいくつかをここで紹介しましょう。

預言者ムハンマドは、猫を死ぬまで家に閉じ込めていた女性はその行為のために地獄に行くこと、また別の伝承では、渇きに苦しむ犬に靴で井戸から水を汲んで飲ませた人の罪が許されたことが伝えられています。

ある時預言者ムハンマドは、顔に焼印が押されたロバを見て、その悲しみを次のように表現されました。「この動物の顔に焼印を押した者にアッラーの呪いがありますように。」簡単に呪いの言葉を口にはされない預言者ムハンマドが、この哀れな状態を見て呪わずにはいられなかったということは、どれほど関心をひくものでしょうか。

預言者ムハンマドは軍とマッカ征服に向かったとき、道で子犬たちに乳を飲ませている雌犬を目にされます。教友たちのなかからシュラカに、すぐに行ってそばで見守り、どの兵もその犬や子犬たちに害を与えることのないようにと命じられました。

またある時教友達の一部が鳥の巣を見つけ、巣の中のヒナを取り出してかわいがっていました。ちょうどそこへ母鳥が来て、ヒナが彼らの手の中にあるのを見て騒ぎ始めました。アッラーの使徒はそのことを知り、不愉快な態度を示され、すぐにヒナを巣に戻すよう命じられました。

預言者ムハンマドは空腹で腹と背がくっついたようなラクダを見て、「この言葉を持たない動物についてアッラーを恐れなさい」と言われました。また動物の搾乳の際に乳首をいためたり傷つけたりしないよう、搾乳をする人が爪を切ることを求められました。

親愛なるムスリムの皆様。動物への虐待を防ぐために預言者ムハンマドは、いくつかの規律を作られました。この中で預言者ムハンマドは動物を、殴ること、空腹もしくは渇きのうちに放置すること、子供を取り上げること、競走させて戦わせること、力の限度を超える荷物を運ばせることといった悪い振舞いを禁じられ、この種の行いをした人に対してはご自身が注意されていました。

預言者ムハンマドは動物たちに物理的な暴力を使うだけではなく、彼らに悪い言葉を投げかけることもよしとされず、そのため乗っているラクダに呪いの言葉を吐いた女性をラクダから降ろすよう要求されました。

動物へのよい行いが善行となるかどうかについて尋ねられた質問に対し、預言者ムハンマドは「生命を持つあらゆる被造物に対するよい行いには、善行が与えられる」と答えられました。人間に対する迫害や不正を喜ばれないアッラーは、創造された他の生きものへの迫害を喜ばれることがあるでしょうか？アッラーは、対象が何であれ迫害や不正を認められないのです。

今日のフトバを預言者ムハンマドのこの項目に関する他のハディースで締めくくりたいと思います。「アッラーは慈しみ深い者に慈悲をかけられる。だからあなた方も地に生きる者たちに対し慈しみ深くありなさい。天にある者たちがあなたに慈悲をかけるように。」